

B S T J

BUSINESS SUPPORT TEAM JOURNAL



合同会社 EZO PRODUCT

エゾシカレザー エゾシカレザー製品 皮革製品全般製作請負

代表 菊地 隆

住所 札幌市中央区南6条西11丁目 高砂電機ビル310号
TEL 090-3112-1199
ブログ <http://ezoproduct.blog103.fc2.com>



NEWS

北海道信用保証協会からのお知らせ



「オーエンチャンネル」が完成しました!

北海道でご活躍されている創業者の方をご紹介します動画コンテンツ、「オーエンチャンネル」が完成しました! 第1回目の特集は、本誌にも掲載している合同会社EZO PRODUCT様です。今後は、本誌と併せて、オーエンチャンネルでも創業者の方をご紹介しますので、ご期待ください!

動画・記事
公開します。



オーエンチャンネル

YouTube

北海道信用保証協会 オーエンチャンネル 検索



創業セミナーを開催しました。

北海道信用保証協会では、起業・創業に関する情報発信を目的として、昨年度から創業セミナーを開催しています。今年度の開催については下記のとおりです。

- 実績 / 小樽商科大学 (H27.4.23)、小樽桜陽高校 (H27.6.17・24)
宮島学園北海道製菓専門学校[一般] (H27.6.22)
北星学園大学 (H27.6.25)
- 予定 / 宮島学園北海道製菓専門学校[社会人] (H27/10予定)
札幌学院大学 (H27/10予定)

※H27.7 時点における確定分のみを記載しています。

引き続き、起業・創業にかかる情報発信に取り組んでいきます。



START-UP! STORY

EZO PRODUCT 「菊地隆さんの創業物語」

ジビエ料理で人気のエゾシカ。その皮は廃棄されるものでした。そんなエゾシカの皮をなんとかできないか・・・東京でのアパレル業界経験、人脈を活かし「エゾシカ」の皮を革として活用するために創業した菊地さん。単なる商品流通のみならず、環境問題や町おこしなどを視野に入れた「合同会社EZO PRODUCT」菊地さんの創業物語。

菊地隆さんの創業キーワード Start-up! Keyword

まずは、やってみること。

【ベンケース】
柔らかいシカ革ならではのユニークなデザインがポイント。



ひとつの創業には、
たくさんの物語がある。



事業内容の紹介

EZO PRODUCT Data

埋もれていた北海道の資源に価値を。エゾシカの革は、大いなる可能性を秘めた素材です。

手にしっとり馴染み柔らかさ。エゾシカの革がこんなに触り心地の良いものは驚きました。「しなやかなだけではなく、通気性がよく、濡れても硬くなりにくい。水洗いまでできる。大いに可能性を秘めた素材です。欧州では牛革よりも上質な革として認められています」。

そう話すのは、エゾシカ革を専門に扱うメーカー「合同会社EZO PRODUCT」の代表を務める菊地隆さん。これまで活用されてこなかった北海道の資源＝エゾシカの皮に価値を見出そうとこの事業を立ち上げました。

札幌市中央区にある事務所兼工房には、カラフルな革の見本、商品サンプルなどが所せましと並んでいます。いずれもセンスが良く、機能美を備えたものばかり。思わず手に取ってみたいくなります。



環境問題を含めたエゾシカ革の魅力や価値を、全国に発信していきたい。そして、そこに関わる北海道の人や技術、思いを、繋いでいく役割も担っていききたいと思っています。

菊地さんは以前、東京のアパレルメーカーに勤務していました。エゾシカとの出会いは、「故郷で何かを始めたい」と札幌に帰ってきた10年前、増えすぎたエゾシカによる農林業被害から、年間約10万頭(当時)が捕獲されている事実、さらにその皮が廃棄されている現状を知ること。「個体管理で断られたエゾシカの命に、皮革製品という新たな命を吹き込むことが自分ならできないのではないか」。そう思い立ち、この事業をスタートさせました。

菊地さんの仕事は多岐に渡ります。道内での原皮(生の皮)の調達から始まり、専門業社と打ち合わせ、商品に合わせたなめしや染色を経て、質の高いエゾシカ革となります。「家畜と違い、野生のエゾシカ皮はシボ(シワ模様)の入り方など、1枚1枚表情が異なります。その個性を伸ばすような加工をオーダーしています」。専門知識が求められる分野ですが、前職での経験が大いに生かされています。

その革をどのような商品に生かすのか、コーディネートするのも重要な仕事。1つには全国ブランド、あるいは道内のアーティストとタイアップしたものづくりがあります。単に素材を供給するだけではなく、一緒にエゾシカ革の魅力や可能性、さらに背景にある環境問題をも発信すべく、取り組んでいます。

もう1つは、エゾシカ被害の多い自治体と協力し、エゾシカ革を通じた北海道ブランドの創造にも力を入れています。「地域から皮をもらい、革にして返す。エゾシカを減量するだけではなく、地域色豊かな皮革製品を生み出す循環型社会が理想です。また、「思いを発信したい」という若手クリエイターや地域の方の後押しもしていきたいと思っています」。

皮から革へ。命を繋ぐだけではなく、人、技術、思いを価値へ繋いでいきたい。菊地さんの挑戦はまだ続きます。



Photo	<p>美しくフィットし、水濡れもOKのエゾシカ革の足跡。</p> <p>革製品の定番、バックケースもシカの革です。</p> <p>ドッグトレーナーさんとのコラボレーションで製品化したシカ革の犬の首輪。シカ革特有の柔らかさでは犬のストレスにならない優れもの。</p> <p>やわらかなシカ革はイスの素材にピッタリなんです。</p> <p>質が異なる、牛革とシカ革のコラボレーション。</p> <p>様々な機会に表現できるシカ革。バッグのデザインにもいろいろあります。</p>
-------	--

創業の動機や経緯について

まず現場を知ることからスタート。形を変えた新しい命に繋いでいきたい。狩猟現場を間近に見て、思い新たに。

この事業を始めるに当たり、菊地さんは1年半ほどかけてエゾシカ被害の大きな市町村を回りました。狩猟の現場、エゾシカ肉の解体場、役場などを訪ね、エゾシカに関するリサーチやネットワークづくりに尽力。誰も手がけたことのない分野に挑むには、人間関係も情報も流通も「インフラの整備」が重要と感じたからです。また、「環境のために失われた命を無駄にしたい」という思いを新たにしたいです。



▲山積みされた革たち。どの様な製品になっていくかアイデアが広がります。

創業時の苦勞・悩み・解決方法について

まったく新しいことを始める場合、周囲の理解を得るのは容易ではない。何度も思いを伝えることが大切。

皮が革となり、価値は生まれます。「ところが、皮を活用することに理解を得るのがとにかく大変でした」と、菊地さん。心が折れそうになった時、親交のある日本のレザー界のカリスマ社長に相談。「皮革に詳しく、生かし方を知っている人間は、北海道にはお前しかいないだろう」との一言が、菊地さんの背中を力強く押しつきました。「その言葉で自分の思いを伝えるしかない、ぶつかって行こうと、割り切ることができました」。



▲革を加工する特殊な機械。革の特性を知ることが活用の第一歩です。

経営において心がけていること

同じ方向を向いて繋がった者同士、共に向上でき、喜びを分かち合える関係づくりを意識しています。

ひとりではできないことには限界があります。「同じベクトルの者同士、協力してやることで、もっと話題になったり、リスクヘッジできることも多いと思うんです。自分の場合は革の活用を通して、繋がった人同士が互いに喜びを分かち合える、Win-Winの関係になれるスキームを創れるよう、活動しています」。



▲「リバースプロジェクト」。「マンハッタンボーダーズ」そして「エゾプロダクト」が、環境問題というテーマでつながって誕生したメッセージジャーナル。

START-UP! Advice!



**実際に動いてみる
ことが、何より大切
だと思います。**

by 菊地 隆

自分にしかできないことに出会うには、さまざまな年代の人と会って話を聞いてみる。いろいろな本を読むこと。そして、人の話や本の内容を自分に当てはめて、自分にはどう活かすことができるかを考えてみるのが、大事だと思います。そこから何かヒントを得たら、まずはやってみること。実際に動いてみるのが何より大切だと思います。そこから自分のやりたいことを見つけたら、折れない思いと熱意も大事にしたいですね。

Start-up! Keyword

まずは、やってみること